

# 三河アララギ

平成二十九年 2017年

六 月 号

第 六 十 四 卷      第 六 号



ニューヨーク日記(128) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

PUERTO SAGUA RESTAURANT

Blue Shoe Diaries

---



これが本場のキューバンサンド。確かね、キューバンサンドはフロリダ出身なんだよ。キューバ人の移住してきた人達が作り上げたとか。ローストポーク、ハム、チーズ、ピクルスにマスタードをキューバンパンで挟んでプレス。

---

Dinner number 2. A cubano after an evening stroll thru the beach. It's much lighter than you expect. Served piping hot (I burned the roof of my mouth rushing to chow).



黄素馨の門(昭和四十一年〜昭和四十四年) 御津磯夫

落葉松にまつはるをがせ枯れがれになびく峠の風になほゆく  
風向きになびき傾きとがりたるれんげつつじの冬の芽ひかる

片岡に孟宗竹の冬のいろ吉良の野の道人稀にゆく

神のごとき奇術のごとき速効をわれにもとめて迫め来るもの

ひよどりは庭の朱実を喰ひつくしこゑ叫ぶなく飛びすぎるなり

小鳥らのみづから空をとぶさまを不可思議としてわれは睡れる

松の風竹の風ききてねむるべしひとたび遠き鴉のこゑに

松の葉の奥にとどまる白き雲かたちうつろふまたたきのまを

ひよどりのとびたちゆきし一つ枝ゆれやむまでのしばしのまをも

折れやすき榎木の青をかざしゆくしたがふ妻は水をさげつつ

歌集「かぜくさ」

大須賀寿恵

仰ぎ見る竹をたわめて雀等はむらがり鳴けり夕まぐれ時

竹に生なるごとくに雀ら次々に竹の秀たわめ枝移りゆく

ひとときを藪にぎはしし雀等の声かたまりて静もりゆきぬ

藪の中暮れてゆきつつ雀等のねむりたるらし竹のなびける

白々と花かたまりてゐる梨にこゑ幼きは青蛙らし

甘藷の葉の萎えたる畑をよこぎりて十四条休職の友を見にゆく

事務机の下を団扇であをぎつつかたみに蚊を追ふ居残りの君と

雨漏りをうくる四つの馬穴の中に落ち来る雨のそれぞれの音

寄せ植ゑの鉢の楓の稚きには蓑着てぶらさがるなり

「引馬野考」提出依頼のありしと云ふ国会図書館の青銅の門

歌集 「草々」

今 泉 米 子

幼らの羽田を発ちてゆく日なり感冒に臥しつつおぼろにおもふ

白玉の椿のつぼみ昨くひやぶるせんかたもなき鶉をいふ

飛石を踏みわたりゆく今の今忘れて何をおもひるたりし

黄金絲ほそき花のまんさくわが庭に来てはじめての冬を越したる

白々ともり上る花の花馬酔木夕べとなりて明るくなりぬ

雑草ははや瑞々し冬の木の梅花うつぎに施肥せしあたり

土の上の花のしとねの花椿先に咲きしは先に散りつつ

手作りをおのおの携へ東京よりみちのくより幼ら伴ひて来る

落ち夏柑庭石の上に竝ならばせてをさなきものら帰りゆきたり

はるばると来てときのまを松笠に落松葉刺して遊びたるらし

歌集「はゝきくわ」I

河原静誠

都橋御所橋等をわたり来て老松ならぶ行在所の跡

持統帝の行在所跡の松蔭に海苔採る小舟つながれてあり

役小角の拓きしと伝ふ細道の羊歯かきわけて蕨をつみぬ

高速道路と今はなりたる吾が山につつじ手折りし去年を想ふ

石仏刻みし友の新盆に其の石地藏を庭にまつりぬ

幼な等と名札を立てぬ垣の辺に植ゑて萌え出づる花々の芽に

独り居の雑草茂る縁近く今年植ゑたる白百合の咲く

園庭に植ゑしダリヤに初咲きの赤き花咲く雨降る今朝を

軒先のカンナの花にやどりをり雨蛙一つ黄色になりて

手にしたる絵葉書とくらべ乗鞍のお花畠に黒百合さがす

## つばやき

蒲郡 岡本八千代

台所をわが化学室とつばやきて夕餉の支度にとりかからむとす

化学室にわれ独り立てば何やらと楽しくなりつつほうれんそう茹でる

つばやきは何つばやきてもすぐに消え誰にもわからぬ如くに楽し

今日よりは一重のワンピースに着替へたり少し新たな心地さへして

後手うしろを組み立て静かに庭に佇てばスズメノエンドウの小さき紫

庭に動くわが影もまだ淡き影などか淋しくなりてくるはや

名付けたるわが木ムクゲ権庵の木権今年今年の緑葉萌えてきたれり

ムクゲの木に花咲く季ときの近づきつつ今日もこもれり私の部屋に

卯の花の花盛りなりその下の水甕に棲むひとりぼっちのメダカ

水甕をわがのぞきたれば忽ちに水の朽ち葉のかけにメダカは

# 無限

東京 今泉 由利

黒黒く瘤瘤古木の胴に咲く初ういろうい桜の花を見守る

花托より今放はなたるる花びらを追ひかけ追ひかけたたちまち無くす

天も地も舞ひ舞ふ花びら花吹雪スケッチしてゐる私を埋むる

この数を数ふることの出来ざれば今日の無限の花びらのなか

萼片がくへんと花托をつなぐ花柄かへいにていまだ桜の色を保てり

焦点は八重の桜の普賢象象の鼻なる雌しべにズーム

石垣の継ぎ目継ぎ目にこの年の古代紫たちつぼすみれ

咲き初むる花の黄色も混じりつつ菜の花は今おひたしとなる

直ぐ立ちて天に尖るる九条葱この新しき緑を食ぶる

彫りはじめむ角材檜に香のたちてここに居ませる釈迦如来像

## ぬくもり

豊川 弓谷 久子

心当りは無きかと聞かれる我が背骨圧迫骨折と診断さるる

手のひらのぬくもり浸み来る痛む背をさすりて呉れる子の手のひら  
病む母の背をさすりぬし小学生の己が姿が子とだぶり来る

満開の御津山桜花筏浮かべて流れる御津川を心の中に描いてゐたり  
焦らずにじっくり治さむ薄紙を剥ぐようにと言ひし母を憶ひぬ

子の手を借りず立ち上がりたり歩けたりおぼつかなければど五歩六歩  
二十日ぶりに子と食卓に向ひ合ふパン焼く匂ひコーヒーの香り

硝子戸越しに庭眺めをりオキザリス花ニラシヤガと春爛漫

やりたき仕事あれもこれと思ひをり子に頼りぬしこの一ヶ月

椿若葉が陽に照り眩し我が狭き世界もすべて新緑となる

## 寝返り

豊川 内藤 志げ

花桃の高き所に網の見ゆ毛虫の巣らしたい松に燃す

幾度も肩を上げたり腰を上げ五ヶ月の曾孫は寝返寝返り近からむ

鳥こずに藪の穂先も揺がずに雨のみ落つる日がな一日

延命の治療を断はる姉の顔熱きタオルに目尻拭きやる

頑張れと握るわが手を返す姉涙を拭はず病室を出づ

姉の所にひとり車に行ける場所日に一度丈顔を見にゆく

春大根虫穴多く黒々と煮ればやわらか富勢と云う名

道の辺にシロツメ草の茎長く摘みて束ねて野の径を行く

花を持ち朝の散歩の廻り道西光寺の枝垂れ桜の真向に合う

父上も逝なる日の夕方にわれを呼びお椀一杯水を飲み干しし

## 自然農

岡崎 林伊佐子

幼な日の亡き父母を真似る自然農薬剤まかぬ野菜育てる  
農耕に生き行くわが手も日焼けして健康保つ老いの倅せ  
花虻が昼陽にかげ曳く西瓜畑蔓ものびきて藁を敷きたり  
わが指紋減るほど畑の草とりて花も野菜も育てる喜び  
矢印も文標もなき過疎の里住む人もなく空家の集落  
幾とせも過疎のふる里まもり来て石ころ道の夫の補修する  
三月の杉森の中に春蘭の蕾ふくらむわが家の山に  
暁に凍みて野に咲く蒲公英の茎の和毛が白く目に立つ  
玉葱の畝間に咲けるほとけの座しばし残して花を楽しむ  
亡母の血を姉妹にて継ぐ歌の道師は違へども心はつうじる

## 自立

豊川 安藤 和代

誕生日と祥月命日花盛り父さんそちらももう春ですか

七十路の夢を語りに会いたしと言いつつ日びは過ぎてゆきたり

孫達の巣立ちし部屋に老二人一合の米を黙もくとどぐ

孫二人宿舎に発ちし今日の日よテレビドラマを夫も見に来ず

時来れば孫の自立は当然と解っていても深き溜息

誰れも来ず電話もならず今日一日おまえがいればいいと夫言う

一合の牛乳温めよろよると夫と分け合う花冷えの夜

友訪えば茄子と胡瓜の苗植うる長ぐつ鉢巻きりりしき姿

もうすでに義父母もいませず故郷の茶畑に立てば山鳩の啼く

春風に野菜サラダが美味しいと孫はキャベツをバリバリと食む

## 甘酒

春日井 清澤 範子

菜園の隅に一本鬼ゆりは隣の家より根付きたるもの

雨降りていつきに芽ぶきし茗荷なりとがり芽に肥料ふりまきてをく

米こうじほぐし御飯と混ぜ合せ温度六〇度に保つ甘酒

寒天は食物繊維の多ければ牛乳五十cc入れて固めぬ

かりもりは夫の好物柔らかく割りて味噌味に漬け込みて食む

陶器の鉢に黄色のダリアに紫のペチュニアを植ゑもう一つの春

暖かき陽ざしの中の園芸店にてダリアペチュニア色良きを買ふ

三日続きの雨に桜は花辨かべん散り萼の赤きが枝に残れり

葱を抜きて広くなりたる菜園の露の臺一つ咲きて終りぬ

春彼岸過ぎて雨のけふ暖かし雨の中にも鳥の声あり

## 弱氣の終わり

大阪 伊藤忠男

観るところ選ばぬ桜ならばこそ窓辺に見とれる花びらの舞

退院と言われ長き病院のあれこれは今過去の思い出

訓練と言えど余りに惨めなりリハビリなしに漏れ防げぬか

我が気持ち表す言葉何もなし両手あわせて病室を出る

今あるは先生ナースのお陰なり感謝感謝に頭をさげる

長かりし病に勝てり万歳と叫びたくなる心抑えて

遠出には身体気がかり今もって味わうことの無きに戸惑う

一人なら早く行けるが遠くまで行くは多くの友いなくては

ビル街に沈む夕日も宵のうち明日は東の空を照らすや

ひと月も経てばあの日は過去の過去明日しか無きが我の生き方

オオシマザクラ 沼津 鈴木孝雄

ソメイヨシノ重なり立つはオオシマザクラ親子の出会い共に咲くなり  
賑わった狩野川堤の桜並木老いにむち打ちソメイヨシノ咲く

焼鳥屋頼みもしないのにお通しがバーニアカウダここの国

ゴミに混ざり大きな生樹海岸に狩野川の州から漂着したか

826番の蔵書探すも見つからず8を6との見間違えなり

上からは可愛いピンクの花なれど下からは黒いソラマメの花

ホトケノザすつきり伸びた茎の上緑の台座に紫の小花

耕した畝から楕円の硬い実がこれカラスウリ鳥の隠しか

暴風雨抜けて直ちに畑に行き倒れたニンニク一本ずつ戻す

空き地めぐりスペアミントと争いに空中戦でカモミール優勢

## 枝枝花花

東京 森 岡 陽 子

春はじめ手負ひの横綱優勝は涙こらへず花道下がる

あちこちの桜開花の知らせありぼんぼり明かりみぞれ降り落つ

夜桜にぼんぼり揺れる目黒川並ぶ出店は無国籍料理

突然の春の雷雨の音十分で止む月皓皓と

鶺鴒せきれいはチツチと尾を振り水辺行く石神川の満開の桜

咲き満ちた花弁風に舞ひ上がる川縁の桜に再びの風

幹に咲くふたはなみはな花の景老木賑あう一木尽し

橋からの眺め遠くも近くにも枝枝花花はなびらはなびら

花筏流れ流れにゆらゆらと花びら離るる花びら重ね

湧水いずるの出流の池を見守るは弁天様と古木の桜

## 花ぐもり

東京 足立 晴代

花ぐもり流れ行く雲光あり雷鳴とどろさし雨風吹き来たる

花の雲人の流れは止めどなく何時まで続く散りゆくまでは

日々変る散り行くまでの空模様五月晴れ恋うみなのは

目黒川散りて流れる花筏いづこに行くやだれしらぬなり

亀戸の天神様の藤の花大きな花房橋に垂れをり

道すがら藤棚ありて花ぶさのゆるしの色もさえぐくとあり

五月晴れ恋がれし仰ぐ大空に深々息もさえぐくとせり

花の影求めて歩む<sup>あゆ</sup>人々のざわめき満ちて何時果てるやら

武者人形久方ぶりの世の中を驚くばかり眼を見開きて

花の里人<sup>さと</sup>波ありて静かさも散りゆくまではもどらざらむや

「気をつけてね」

横浜 阿部 淑子

新緑の年度を迎え若者は抱負を胸に歩幅拡げて

卒業し初出勤と気ぜわしく出かける孫に「気をつけてね」と

植え込みしペースメーカー八か月我に馴じみて尽しくれおり

大自然の恵みと人に支えられ平均寿命の誕生日迎えり

朝日受け目覚めし幸に感謝しつ刻みし時を充ちて過ごさん

四十年勤め励みて贈られし花に言添え娘の帰宅

春となりゆく

豊川 白井 信昭

佐脇浜潮入の浜を歩きゐつ降り出す雨は春となりゆく

佐脇浜安礼崎跡荒風の我には寒し啓蟄すぎて

庭隅に細枝撓ね雪柳もえ出る春となりけるかも

いついつも店までの道モクレンは白に紫に今を盛りと

店頭に所狭しと花木並びわが欲し赤のセラニウムは奥

遠江の桜前線おいかけて妻を連れ行く奥山方広寺

若き日の記憶うすれる道いくつ走り継ぎ来てりょうたんじ龍潭寺よこ

境内の林は広くひと続き龍潭寺またなんちようぐう南朝宮

そび聳え立つ伴僧杉見ゆ鶯のどこからともなく鳴き響とよもす

湖の引いなさほそえ佐細江の漣みおつくし標遠く深く春光の中

## 卯月の櫻

名古屋 近藤映子

卯月なり見降す櫻は満開に川面に散りて流れゆく

我右手足春には楽に成ると思いきや変らず痛むよ

四月の検診日櫻は早くも散り落ちて若葉の緑の道を

曇り日は身体の痛み強く感じるだけと医師は言う

患者の多く痛みの是非を天候の所為にしたがると若き医師

外出の極めて少なし我ライフ年に二〜三度娘とピアノ(コンサート)楽しみ

検診日眼ぶたまが落ちると医師に告げれば投薬の増す

若返る方法などは有りはせぬ過ぎたる時は二度と戻らず

戦後七十年新制中学創立七十周年と成る今年よ

見降しの葉櫻の下タンポポの黄朝日を受け輝り

## 羽二重餅

蒲郡 杉浦恵美子

邪念なく花見に専念してゐます見損ねたとは今年は言はぬ

氷点の朗読ありし授業ゆゑ国語がいちばん楽しみなりき

宵闇の廂の上に京都タワーぽおっと浮ぶ東本願寺

夫在らば此処に居ることあるまいぞ親鸞聖人音楽法要

花冷えの渡殿の縁幾度も曲りて到る御影堂参り

御影堂の五色の幔幕風に舞ふ親鸞聖人御誕生会の

砥神山頂に立つ眼下には弘法山があんなに小さく

下り来て遠望すれば砥神山慥かにこんもり双つの頂

ふはふはの羽二重餅を求めたり崩さぬやうに折捧げ持つ

新学期何やら我も弾みたり羽二重餅を求めし帰路は

## ジャガ芋の芽

豊川 山口千恵子

祭礼の準備に区民集まりぬわが組割当は築山まはり

枯れ落葉掃き清めたりすがすがと振り返りつつ解散となる

祭礼にはらから集ひてテーブル囲む孫らすこやかに成長したり

冬木なる楓に新芽のきざしくる枝々つやつや勢ひはじむ

草取りの手をとめしばらく眺める長く続ける蟻の行列

庭草をとりつつをりぬはらはらと桜の花の散りくる下に

やはらかき風にはらはら桜の花散りつつをりぬきりなく散りつつ

ジャガ芋の芽二本残して欠き取りぬ育ちてゆかむ青々一畝

ジャガ芋の畝に土寄せしてをりぬ芽青々と十糶ほど

赤き花咲きて美しきシバザクラ搔き取られたり雑草と共に

## 執着

豊川 夏目勝弘

指に付き放れ落ちざる一筋のオボロコンブに執着を見る

潜みゐる執着いまだあるを知る朝の食事を終へたるときに

縁に付く飯粒一つを箸をもて口に運び朝食を終ふ

ネムの木の細枝に黒ずむ莢の実の落ちし刹那をこの目に見ず

庭隅のハランの広葉の尖れる先に雫を止どめ鎮まる朝<sup>あした</sup>

五年余り花を付けざるコチヨウランの冬の囲いをこの朝ときぬ

ひたすらに求め運ぐらす語彙のあり再び目覚め迷ひ運ぐらす

同じ物同じ量のみ朝食を続けてゐるも執着なのか

必ずや明日は確実に来るものと思ふことさへ念はざりけり

日月火水木金土と健やかかなりこの七文字が命なりけり

歌集 「夢のつゞき」

水上 信子

琉球の古酒は胃の腑にきりきりと落ちて酔わせてわれを踊らす

沖縄の暗き歴史に背を向けて海と空との青のみを見つ

大きな海に囲まれ暮らす島人の言葉のひびき美ら美らやさし

門口に鉢植えみかんを飾りたて春節迎うる準備着々

食の街に珍味珍種を求めゆけば海鮮市場にワニ売られおり

神いますところ紀伊国山深く谷も深かり照葉樹満つ

本宮の屋根を覆える楠木の老樹は神の宿りのごとし

古い二人山の山奥瀕八丁和船一艘のなりわいつまし

紀伊国の捕鯨の町に入りぬればくじら三味酔鯨やよし

浦々を細かく刻む半島に地形の歴史克明なりき

『いじよせ』

(西浦公民館 いーはとぶ)

魅せられし「けむり水晶」の短歌たちをわれのノートに写して二頁  
期せずして入賞案内届きたり吾子に送らむメールに歌を

森 厚子

くれなゐのバラの芽伸びたり春の雨激しくうちし今朝の朝  
やはらかき光にさそはれ海を見に今日も来たれり海鳥いくつ

山崎 俊子

信号の向かうの黒き立姿もしかして君かと想ふ一瞬  
けふもまた長き尾を振り白鶴鴿わが豌豆の若芽啄むか

三田 美奈子

夭逝の母の弟妹勇と恵子よ我が生ある間はまその名忘れじ  
魁ける梅の花芽に春の雨未だ冷たく降り頻りつつ

水野 絹子

わが畑の冬の野菜の青き臺たちまち伸びて花盛かりなり  
わが孫のバスケの試合見に行けり五分の出番に往復八時間

牧原 規恵

われら舞ふ太極拳の二胡の音が吸ひ込まれる如今日の青空  
ブルーブリッジを渡りし時に広ごれる三河の海の遠々のひかり

稲吉友江

京都へと青春きつぷのけふの旅かつての私の父母のごと  
六年生孫はわが家に「キセキ」歌ふ思はずわれも共に歌ふよ

鈴木美耶子

水ぬるみ蹲ひ覆ふ若緑コケの広がりああ神秘的  
花展にて室町時代再現の松のたて花我は生けたり

吉見幸子

細道にマンホールの設置なり都会風かと蓋を踏みたり  
大小のマンホールの蓋青光る石けりの時の丸書きし道

牧原正枝

春温し防波堤添ひ歩きゆく白き小犬が尾を振りて来る

「お返し」と曾孫の差し出すチョコレート五歳の男の子はいつもと違ふよ

石田文子

## 現代学生百人一首

東洋大学

### 【小学生の部】

こわがるな明日はきつととつてやる白いボールを体の前で

宮城県加美町立宮崎小学校五年 小松 浩也

火の玉が龍のごとく舞い上がり花になるときみながどよめく

埼玉県コロンビア・インターナショナルスクール六年 鈴木 孝昌

大会に出られないことわかった夜ベランダに出てほしをながめた

千葉県立市川市立大野小学校四年 神尾 康介

発表会黒と白とのけんばんに手を置いたならもうもどれない

千葉県山武市立睦岡小学校六年 齊藤 光里ひかり

強敵の速くて重いあのシュートそれでもぼくはゴールをまもる

千葉県山武市立睦岡小学校六年 鈴木 悠介ゆうすけ

落ちた葉をていねいに拾うはかまいり祖母と話すよ守ってください

大阪府堺市新浅香山小学校五年

金平和佳奈

花ふきんチクチクぬつてもようであるみんなの個性花ふきんにある

大阪府堺市新浅香山小学校五年

横見陽菜

だんじりで走りまくって汗まみれおれも見せたぜ男だましい

大阪府堺市深井西小学校六年

大野栞音

感動を音とリズムでまきおこすみんな心を一つに合わす

大阪府堺市深井西小学校六年

河本紅奈

庭に出てさると戦うおばあちゃんおそわれないでね心配だから

長崎県大村市立放虎原小学校六年

安藤結唯

## 「歴代天皇御製歌」(七十五)

賈名海屋資料館

「櫻町天皇」第百十五代・在位一七三五年(十六歳) — 一七四七年(二十八歳)

櫻町天皇は、中御門天皇の第一皇子。三十一歳若くして崩御された。大変聡明な方で、朝廷と幕府との関係について深く心にとめられ、二百八十年間にわたり廃絶されていた「新嘗祭」を復興された。

櫻町天皇の和歌は、「列聖全集」に千五十余首が掲載され、「櫻町院防中御会和歌」「櫻町院御集」が残されている。

あし原の國はうごかじいくとせもあまてる神の守るめぐみに

社頭榊、寄神祇祝、二十四歳「立春」

神がきやかかはらぬ色をさかき葉のときはに君が代を守るらし

あふぐぞよおろかなる身もあまてらす神と君とのすてぬ恵みを

寄道祝世 十六歳

新嘗の赤丹のはつ穂もろ人にとよのあかりの今日たまふなり

心静酌春酒 二十三歳

あきらけき神代のまゝに月日星くもらぬ天のみちぞたゞしき

神祇

天てらす神ぞ知るらむ末ながき代々のひつぎを祈るこゝろは

暁神祇

もとがしは白酒黒酒を打ちそゝぎ新嘗まつるあかつきのそら

竹有佳色 二十四歳

(もとがしは 柏の古い葉で大嘗会の時その葉を酒にひたして神に供へた。)

(白酒黒酒 大嘗会などに神前に供える酒、くさぎの根を黒焼にしてまぜたものを黒酒、まぜないものを白酒)

國ながくをさめし神のあととめてかはらぬ代々の誠をぞ思ふ  
かしこしな神代のまゝに皇神のめぐみつたふるあまつ日嗣は

内宮御法楽 忘恋

あまてらす神のさづけしかゞみこそむべわが國の光なりけれ

祝

# 童謡 「おたまじやくしが かえるになつた」

高橋育郎 作詩

一

あとあしはえたよ ほらーらん

こんどはまえあし ニヨッキニヨキ

しっぽがだんだん ちぢまつて

おたまじやくしが かえるになつた

ピョンピョン ケロケロ ピョンピョンピョン

二

まえあしさがきまで ぐんとのぼし

あとあしうしろへ ポンとける

みずのなかでは かっこいい

かえるおよぎで とくいのポーズ

ポチャポチャ スイスイ スーイスイ

三

かえるになれたよ うれしいな

きょうはたのしい おまつりだ

一番星の てるころは

みんなあつまり ピッコロふくよ

ピコピコ ピイピイ コロロンロン

## 「歴代天皇御製歌」(七十四)

貫名海屋資料館

「中御門天皇」第百十四代・在位一七〇九年(九歳)―一七三五年(三十五歳)

中御門天皇は、東山天皇の第五皇子。

新井白石が幕府に登用。吉宗が將軍になり、漢字が風靡し、荷田春満が「国学校」を創建。

なにごとも君にまかせて頼むぞよ言葉の道のしるべのみかは 春到管絃中(十五歳)

雪のうちも煙をたて、炭がまの里のよそ目ぞあた、かげなる

春日社御法楽(二十九歳)

わが代にもとところをえてや民までも心のどかに春をたのしむ

御会始(三十歳)

『俳句』

石垣の継ぎ目割れ目のすみれ草

今泉由利

胴咲きの花を見守るひもすがら

行き交ふも袖触れ合ふも桜花

雨降らば歌も詩も吐く柿若葉

松本周二

よき時や雉のほろろに農の庭

はぢらひて媪育てし花大根

競漕の果てて漂ふ艇と艇

米田文彦

競漕の分けゆく川の光かな

ひそやかに戸を締むる音朧月

足元に朝まだ残る花の冷え

柳田皓一

染井吉野八重桜ともバラ科なり

目前をぐあと一声蝦蟇蛙

十万の若葉浄土や九品仏

山元正規

大粒の雨の頬打つ夏隣

大きめの鈴つけてやる子猫かな

春愁や未だに馴れぬ電子辞書

山迫京子

一鉢に千のつつじの咲き満ちて

心地よき電車の揺れや目借時

湧水に枝先ひたる山桜

森岡陽子

春の鴨川藻とともに流れゆく

親猫を子猫追いかくかざもよふ

竜天に昇る夜更けのひとり酒

田中清秀

角の無き鬼と浮かるる花の宴

桜しべ掃くそばに降る薬師堂

満開の花散急ぐ雨の音

重野善恵

一本の紐に戯れゐる仔猫かな

向う岸渡りゆきたや花筏

最北の五重塔に初音かな

今泉如雲

さんしゅう

山菜莢や岩木嶺白たおやかに

天明に噴火せしとや笹起きる

本日休診先生は花見船

植村公女

みほとけに片手拝みや花の雨  
噴水の伸び縮みして一日かな

「一茶名句集」(大正十一年一月廿五日発行)

野大根も花となりけり鳴雲雀

ふらんこや櫻の花を持ちながら

## かさね吟行会

### 「五島美術館」 四月

田中清秀

花屑の付く靴で入る美術館  
金泥の滲む古筆や春惜しむ

さち子  
清秀

学生時代から社会人になった今でも慣れ親しんでいる東急電鉄、その事実上の創業者である五島慶太は鉄道事業において、沿線の都市開発や大学キャンパスの誘致さらに渋谷に複合デパートを開業するなど優れた経営手腕を発揮し一大財閥を築き上げた。阪急電鉄の小林一三と並び「西の小林・東の五島」と賞されている。

今回のかさね吟行会は、その五島慶太が半生をかけて蒐集した古写経をはじめ多くの貴重な古美術品を一般に公開している上野毛の「五島美術館」を訪ねた。

平成二十九年四月十四日、大井町線の上野毛駅に十一時に集合、途中で咲き残る綺麗な桜を見ながら十分ほどで到着する。早速に入場、まず、展示室入口に鎮座している愛染明王座像に迎えられる。かなり摩耗はしているがその鋭い眼光は見るものを圧倒する。また、この部屋には和歌の書として重文の高野切（伝紀貫之）、本阿弥切（伝小野道風）、重文の権中納言家歌合せなどの平安時代の作品や江戸時代の色絵帖、百人一首の色紙など多くの逸品が肅然と並んでいる。

室内の照明を落としショウケースのみ光を当て美術品を浮き立てる演出は幻想的で趣がある。静寂した空間で閲覧者は数々の名品に我を忘れ見入っている。  
中庭では和服姿のモデル嬢が日傘を差しカメラマンの求めに応じてポーズを取っていた。明るい日の光に照らされて春蘭の吟行会に相応しい。

第二展示室には国宝の源氏物語絵巻「鈴虫」「夕霧」「御法」の現状模写が展示されていた。源氏物語の情緒豊かな情景を詞書と絵で表現している彩色絵巻は模写展示ながら見る人を魅了する。なお、当館は国宝五件、重文五〇件を含む五千件の美術品を収蔵しているとのこと。

千年の時を経にけり春絵巻  
先達の古し茶筌や若緑

由利  
素山

この建物は芸術院会員の吉田五十八氏が設計、寝殿造りの意匠を随所に取り入れ現代的ではあるが風格のある佇まいとなっている。庭園は敷地が六千坪、雑木林が多摩川に向かって深く傾斜しその中に大日如来や六地藏の

石仏が置かれ、茶室や四阿などもある。広い築山の散策路を俳句の構想を練りながら巡り歩く。何処からか、すっかり上手なつた鶯の囀りが聞こえてきた。

あたたかや庭の飾に標石

正規

囀りのこぼれて見えず散策路

京子

春先にはコブシが咲き、今はツツジが咲き始めて鮮やかな赤や白の花が斜面を彩り、満天星ツツジもその白い小さな花を枝先にぶら下げている。また、道の辺には紫色の小さな花びらのスマレがそこ其処に咲きその可憐な姿に心が和む。

空晴れてすみれと歩く古階段

しのぶ

石段の角にこつそりすみれ草

礼子

万葉集の和歌や芭蕉の俳句など愛され親しまれているスマレ、その花言葉は「誠実」「謙虚」あるいは「小さな幸せ」で、奥ゆかしくひっそりと咲くところから幸せな人生を歩んでほしいと女の子の名前に好まれる。

石ころの坂道沿うて花萼

陽子

いろいろな花の溢れて董かな

皓一

また、意外と知られていないが可憐なスマレは古くから山菜として食されている。葉は天ぷらや茹でてお浸しや和え物に、そして花びらは酢の物、お吸い物の具に使うようだ。

五島慶太は美術館の開館を目前にして完成した姿を見ることなくこの世を去った。貴重な美術や工芸品の数々を後世に残してくれた同氏の志に感謝すると共にその功績を俳句作りに少しでも活かしたいものである。

句会は近くのレストランを会場として、いつものように雑詠三句出し六句選、今回も名句揃いで無事お開きとなった。

■かさね吟行会■

日時 六月九日(金)

場所 調布 深大寺 食事の用意あり

集合 深大寺山門 11時集合

申込 森岡陽子宛 (03)3712・2835

『酔いの徒然』（六一）

丸山酔宵子

会場一杯に展示されている。圧巻は、まるで天国の入口に着いたかのように感じる Infinity Room（無限の鏡の間）。

『赤い水玉 草間彌生展』

地下鉄乃木坂駅を降り、桜並木を六本木に向かうと、二・二六事件ゆかりの旧歩兵第三連隊兵舎が一部分保存されている全面ガラス張りの国立新美術館が見えてくる。入り口広場の高く伸びた櫟や檜の樹々の幹に、鮮やかな赤い水玉模様のカーテンが巻かれていて、将に草間彌生のオーラが既に醸し出されている。

デビュー以来世界を舞台に活躍してきた「日本が生んだ最も傑出したアーティスト」草間彌生「わが永遠の魂」と題した創作活動の集大成である。代名詞の水玉、モノクロームのネット・ペインティング、男根状の突起を張り付けたソフト・スカルプチュアなどが、天井の高い広

い会場一杯に展示されている。圧巻は、まるで天国の入口に着いたかのように感じる Infinity Room（無限の鏡の間）。

1929年松本市の種苗業を営む裕福な家に生まれ、幼少よりスケッチなど創作に励んできたが、幻覚や幻聴に襲われ、そんな症状から逃れるために水玉の幻想的な絵画「ドット・ペインティング」での自己表現となったのである。その幻覚症状は芥川龍之介と同じ統合失調症と診断したのは、精神科医西丸四方で、草間彌生の絵画に感銘を受け、生涯における良き理解者となった。

1957年単身でニューヨークに渡り、パートナーとなるジョゼフ・コーネルとボディ・ペインティング、ファッションショー、反戦運動など過激な「ハプニング」で話題を呼ぶが、突然のジョゼフの死で1973年活動拠点を東京に移し、絵画だけではなく小説や詩を多数発表。1983年には「クリストファー男娼窟」で、第十

回野生時代新人賞も受賞している。

会場内に設置された大型映像では、大きなキャンバスにひた向きに原色の赤やピンクの水玉を書き込んでいる姿がアップで映し出されている。あれエ・・何処かで見たような人物・・そう・・樹木希林である。本当に樹木希林は顔かたちもしゃべり方も草間彌生そっくりなのである。

桜も散り始め、晩春の陽が柔らかく降り注ぐ昼下がり。情熱的ではじけるような水玉に包まれていると、乾いた喉には、やはりスパークリングワインか・・。今日はスプモーニユ（イタリア語で泡立てるの意）と行きますか・・。

処で、其れから半月後、4月20日、最近話題の銀座松坂屋跡地の巨大且つ豪華な商業施設「ギンザ・シックス」がグランドオープンとなった。6階までの吹抜けの天井には、あの懐かしい我らが赤い水玉の大きなバルーンが

誇らしげに競い合って浮かんでいる。ゴージャスな雰囲気、臆することもなくマッチしていて、実に誇らしい姿を醸し出している。

銀ブラに水玉バルーン薄暑かな

酔宵子

## 本からのあれこれ (19) 米田文彦

### 「米騒動2」

以下は、富山のある郷土史会報に掲載されていた、豪商・地主の息子の中学生時代の記憶である。

大正七年夏の一夜、玄関の前がなにか騒がしかったのです。なんだろう、と番頭さんが見てきて、「漁師のおかみさん達が十人余りお願いに来ています。ここのところ海が荒れて男どもは裸でゴロゴロしているだけのところ、米の値が高くなって困っている、と言うのです。わかったわかった、奥へ話して何とかして貰えると思うから、と言って帰って貰いました。」と言うのでした。翌朝父は役場に行つて、米を寄附する旨を言い、運び込みを手配し、他の有力な方にもお願いして役場で配給するようにしました。この地域では以前にも経験があったので役場の担当も心得がありました。このことが浜の方から半日もたたぬうちに各地に伝わり、滑川魚津方面で

米屋や富商方に「私らにもお願いしたい」という願いやらデモやらをかける騒ぎがおこりました。

これが米騒動の発火点であります。日本中を二カ月半震撼させて鎮圧に軍隊が出動し、当局が報道を禁止したことに對するマスコミの反論、世論の攻撃により寺内閣は倒れました。

私は、昨日学校の同級生で弁当を持ってこない子がいた、今日はまた一人増えていた、ということを家で話すと、翌日父が役場に行き他の有力者の方と共に米を提供したという事もありました。母に言われて、学校帰りにそういう同級生に我が家へ遊びに来ないか、なにか一緒に食べよう、と誘ったこともありませう。その子はびつくりして笑顔になりましたが、その顔は今も思い出します。私の所感としては、富山は騒動の発端にはなりませんが、県人の我慢強い現実的な行動と当局の穩健な実情把握・行動で他地域のような過激な暴動にはなりません。その証拠に当地では送検された者は一人もありませんでした。これは真宗王国といわれたこの地域に潜在する精神的風土も無視できないのではないか、と思つています。

また、当時の新聞記事は、実際を知っている者から見ると本当のことをどの程度調べて書いているのか疑わしい、と感じられるものも多くありました。例えば、役場で準備した救助販売券の数量から逆算して押しかけて来た人数を算出しているのではないか、ということを考えもしました。

当時は株式相場もまだ一般的ではなく、投機の対象は米でした。ニュース第一報の通信手段も電話電報であり、おもしろおかしく書いた記事を更に都会の新聞が煽情的に書いたので各地の人心を刺激した、ということになっていきました。

他の地域の騒動でもっとも印象に残るのは神戸と東京です。神戸は鈴木商店（商社・日商岩井、他の前身）の本社および神戸新聞の本社は全焼し、東京では日比谷公園の一万人大集会や正力松太郎（当時警視庁方面監察官）が石で頭を殴られて大怪我、などがありました。九州の炭鉱地域では更に激しかったようです。

軍隊の出動はのべ兵力三万、出動市町村は約六十に及んだのです。

米騒動の直接原因は米価の急騰と不漁による収入減で

す。米価は前年一升十五銭前後で安定していたものがこの夏は三十銭に上がり、七月三十一日に各地の米穀取引所立合停止、所によっては五十銭という状況でした。

これは第一次世界大戦後の不況下のインフレの下、流通取引制度の欠陥も大いにあり、と言えるのでしょうか。不況で会社が倒産しても会社更生法などありませんから潰れっ放しで、気の毒なこともありました。

しかし、騒動は長い目で見ると普通選挙権獲得、民本主義、社会運動を刺激し進展させるものとなっていったのでした。

以上が記憶の記載のだが、確かに流通機構が未整備だったという側面も大きかったのだろう。

大阪では大正七年八月に米騒動が発生、その後、公設小売市場で白米の正価販売を実施し好評を得たため、他の大都市も追随している。しかし、公設の小売市場が出来ても卸売は旧態依然だった。そのため流通パイプを太くする親市場として大正十二年中央卸売市場法が成立、大正末から昭和初期にかけて大阪、京都に中央卸売市場が開設され生鮮食品中心に動き始めている。現在の築地をはじめとする各地の中央卸売市場の端緒である。

## ある自然科学者の手記 (61) 大橋望彦

1988年3月に科学技術会議専門委員を拝命(国の科学技術に関する最高諮問機関で、総理大臣が直接に委嘱する委員である。当時の総理大臣は竹下登氏であった。)

ここでの諮問を受けた課題は、将来建設される宇宙空間に世界共同で建設予定の「宇宙ステーション」において、日本の基地として実験施設が開設される予定がある(2009年に日本の基地「希望」が完成した。)この実験施設内において、どのような実験がなされるかを検討することが命題となっていた。既に全国的にこのことに付いて公募があり、多くの研究企画書が届いていた。東大工学部の栗原委員長の下に全国から選ばれた科  
学者、約二十名が委員として集まり、それぞれ専門別にそれらの企画書を審査し、会議に掛けて、採択を決定するのである。小生は、主として生化学関係の、特に組織

培養関係とか、生物現象に関する企画に関して約三十件の企画の審査をして、評定して報告した。他の関係の書類も全て目を通して、他の専門委員が報告したものでも随時、コメントすることが許されており、大変厳しい会議であった。例えば、そのステーションの中で、排泄物の処理に関する企画書があり、極めて高熱の燃焼炉で排泄物を処理してガス化する。そのためには効率の良い触媒が必要で、その研究が必要である。というものであった。問題となったのは、排泄物を燃焼させることであつた。ステーションの中で、そのような燃焼に要するエネルギーには何を用いるかが、先ず問題となった。また其処に必要な燃焼炉となると、可成りの重量となることも問題であつた。始めは工学関係の方達の討議であつたので、黙って伺っていたが、全く別の観点から排泄物の処理が出来ないのか。と言葉を挟んでしまった。それはどういう意味ですか。と委員長からの質問があり、例えば、高熱処理をしないでも、排泄物を処理するという意味で、バクテリア処理のような微生物により、排泄物を

分解処理する方法などです。と答えた所、現実にそのような施設のようなものがあるのでしょうか。という重ねての質問に、専門ではないのでよく判らないと逃げてしまった。ここでは、一旦検討事項とすることで終わったが、その直ぐ後に、老人研まで、大林組と、竹中組の技術部長さんが訪ねて来られ、栗原先生が、大橋のところへ行ってもう少し詳しく聞いてこいと言われたとの事で面食らった。詳しいことは判らないが、施設として、排泄物の直接処理に関しては下水道処理があるが、それとは若干意味が異なり、微生物処理を施設の中に取り入れることとして、バイオトロンのようにものを考えてみたらばよいのではないかとアドバイスをした。ではそのバイオトロンに関する文献ないしは書籍は無いかとこのことで、二・三の本をお渡しして、東大農学部に住られた三井教授がバイオトロンを作られ、大変お詳しいことをお話した。要は、宇宙ステーションの中で、排泄物処理は大変重要な問題であろうが、エネルギーの効率を含め、資源として再利用をする方向の事も合わせて考えて

みたらば、という意味で話を挟んだが、具体案を今持っている訳でないことを理解して戴いた。

本来の小生の関連事項について、提出された企画案では、正直な所、これはというような優れた企画は殆ど無かった。というよりもガツカリする程、幼稚なといつては失礼だが、採用できるような企画が無かった。それでも中には一寸面白かったのは、高空で直滑降して極短時間ではあるが(数分間)無重力状態を作ることが出来るので、その間に出来るモデル実験を提唱するものであった。また、発想を転換して、無重力の実験とは逆に、遠心力を利用して、過重力(2G・3G)の状態での実験と地上の1Gの状態との比較検討から無重力状態を演繹的に考える企画といったものも有った。結局は宇宙ステーションに組織培養実験室を作り無重力下での細胞分裂がどうなるかを知りたいという研究企画書が一番将来的性のある企画として取り上げたのである。このときは、具体的実験内容が無かったのであるが、後に小生としても、大変興味が出てきた課題である。

## 絹の話 (79)

「アトリエトレビ」 今 泉 雅 勝

### 「絹の食害」

絹は古今東西人々の憧れの繊維で、古くは資産的価値をも有する物でした。

したがって、絹は大事に仕舞われる事が多く、いざ着ようとして取り出したらいづの間にか虫に食われていて、あわてた経験のある人は大勢いらつしやると思います。

### 絹を食う虫

繊維害虫は今日までに40種類ほど知られていますが、多くの繊維害虫は絹を食べません、しかし「蓼喰う虫も好きずき」と言われるように、絹を好んで食べる虫もいます。この虫たちは絹を構成する蛋白質を消化する酵素を持っていて、他の虫が敬遠する絹を独占して食べられるからではないかと思われまます。

それは一般的に「カツオブシ虫」と言われる小さな虫で、正式には「ヒメカツオブシ虫（鞘翅「甲虫」目）」「ヒメマルカツオブシ虫（鞘翅「甲虫」目）」の2種類です。

他にイガ（鱗翅目）という虫も絹を食べるので、日本にはついでに3種類の絹食害虫がいます。

### 絹食害虫の食性

絹を食べる3種類の虫達の好物は絹よりむしろ毛です。毛の中でも上等なカシミア（シャトウシユ）には目がありません。カシミアと一般の羊毛を一緒にしまっておくと、カシミアの方に食害が集中します。

毛織物の善し悪しは虫に聞いてみるのが一番です。

この虫達は雑食性で食べる物がなければ木綿や麻などの天然繊維ばかりか、ナイロン、ポリエステル、アクリルなどの合成繊維も食べます。

### 虫にとって絹の何処が好みか

肉や魚、野菜、果物どんなものでも美味しい部分とそれほどではない所があります。虫にとって絹にも旨い部分とそうでない所がある様です。

絹の糸を作る時、糸を保護している糸の外側のセリシンの取り方（精練）で糸の風合い、感触が千変万化します。糸はセリシンが多く付いている物の方を好みますので、シャリとしていたり、ザラつとしている物や艶のない固めの絹紡糸、即ち、お米でいえば糠の部分が多く付いている方を好みます。糸は栄養豊富な方を選択しているのです。10づき米の様に精練されてセリシンが殆ど糸に付着していなシホンの様な物はあまり好みません。

よく精練された物を虫が食べる時、未精練の物を食べる  
ときの様に穴をあけるのではなく、糸の表面をなめる様に  
食べる事が多いです。ちよつと目には穴があいていないので、  
虫には食われていないと思いがちですが、表面を削られた糸  
の部分からは目に見えないほどの毛羽立ちが起こります。

### カツオブシ虫の行動

カツオブシ虫はあまり高い所は苦手のように、地上から10  
〜15m位の高さしか飛ばないようですので、4階以上の建物  
にお住まいの方は殆ど絹の食害は有りませんが、エレベータ  
などで高い所にも辿り着き生活する虫もいるようですので  
気をつけるに越した事は有りません。

この虫は日本中均等に何処にでもいるわけではありませ  
ん。地方によっては生息しない所も有るようですが正確な  
調査はされていません。

### 防虫対策

防虫対策の1番目は何といつても使つたまま収納しない事  
です。身体のお廃物や食品の飛沫など虫の好物を残ささな  
い事が肝要です。

絹は防虫加工しないのが一般的ですので、収納容器には樟  
脳やナフタリン、パラジクロルベンゼン系等の昇華性防虫剤を  
入れるのがよいと思います。

絹を食べる虫は食品も食べますので、家の中に食品の食  
べ残し等が床や畳みに付着していない様によく掃除する事、  
特に台所や食堂を清潔にしておく事が大きな防虫対策で  
す。

もう一つの防虫対策は仕舞い込まずに頻繁に使う事です。  
収納場所から出して風を通すのもその二つです。絹を通つた  
空気はほんの少し広葉樹林の森林浴的效果があると思われ  
ますので、その空気を吸う事で気持ちちが和らぎ、幸せホルモ  
ンの分泌が促され、イライラしなくなります。昔の殿様や  
明治の元勳達の部屋の襖や壁に絹を多用した事もうなずけ  
ます。

虫が好む絹の方が健康維持の機能性などが精練されて柔  
らかく艶のある絹より高いといえるでしょう。

これからは虫に教えてもらいながら絹を健康の為に使う  
事を広めて行きたいと思えます。

### 食害を受けない絹

野蚕絹で特にタンニン類の色素がセリシンにもヒプロインに  
も含まれているタサール蚕や柞蚕、与那国蚕等は虫がタンニ  
ンを嫌うとみえて、食害の報告はありません。

## 短歌に詠まれた茂吉

—あるいは茂吉を詠んだ歌人— 六十九回

「月虹」 鮫島 満

## 十九 木下孝一 5

「靈泉延年」茂吉の揮毫ある床の間に母子の山形こ  
けし飾れる 『霜白き道』昭和二十五年

霊泉と茂吉が称へ揮毫せし宿の源泉にこの身湯浴め  
り

前号の終わり近くに挙げた歌に「茂吉ゆかりの宿」という句があったのは右の歌から察するに蔵王温泉の若松屋かと思われる。

この若松屋について、「茂吉の書」にも触れながら説明した文章がある。

バス停蔵王温泉から旅館にかこまれた細い道を上っていくと、道の片側を流れる狭い水路から湯気ももうとうとたち、強烈な硫黄の臭いが鼻をつく。(中略)温泉街中央、道が左へ曲がるところに若松屋はある。昔風の構えの三階建の建物だ。玄関右手外に、高さ一五〇センチほどの石碑があり、「霊泉 茂吉山人書」

と刻まれている。この書の掛軸が当旅館に蔵されている。

若松屋はおよそ二百五十年前に創業され、当時の珍しい木版刷りのパンフレットも残っている。いわば蔵王の老舗であるが、茂吉の養父斎藤紀一の姉わかかの嫁ぎ先でもあった。従って茂吉にとっては伯母さんの家ということになる。

(真壁仁『斎藤茂吉の風土』昭和五十年刊)

右の説明に若松屋の歴史は約二五〇年とあるが、平成二九年の今から言えば二九〇数年ということになる。

この説明にも木下の歌にも「靈泉延年」の揮毫が床の間に飾られているとあるが、若松屋の玄関の外に立つ石碑の字はそれを複写して利用したものであるらしい。

なお、茂吉が泊まって右の書を書いたのは昭和八年のことであった。

蔵王なる歌碑よと茂吉は礎に手を添へまさに仰ぎま  
しけむ 同

霜ふかく茂吉の歌碑をつつむ頃同行九人熊野岳去る

蔵王山頂熊野岳に「陸奥をふたわけさまに聳えたまふ蔵王の山の雲の中になつ」を刻んだ歌碑が建てられたのは昭和九年八月であったが、碑の建立に乗り気でなかつ

た茂吉がこの自らの歌碑を見るために蔵王に登ったのは  
丸五年も経った昭和十四年九月であった。

右の歌はそのとき茂吉が詠んだ「歌碑のまへにわれは  
来りて時のまは言ぞ絶えたるあはれ高山」「わが歌碑の  
たてる蔵王につひにのほりけふの一日をながく思はむ」  
「この山に寂しくたてるわが歌碑よ月あかき夜をわれは  
おもはむ」(『寒雲』)を念頭に置いて詠まれている。

齋藤茂吉の歌碑の台座なる石の苔むす紋様を見つ

梅干を舌に転ばせ若妻と勿来の峡路行きし大人はも  
同・昭和二十六年

福島県いわき市の勿来関跡での作。ここに立つ歌碑に  
は「みちのくの勿来へ入らむ山かひに梅干ふふむあれと  
あがつま」(『あらたま』大正四年)が刻まれている。右  
の二首目はそれを踏まえているのである。

保育園の庭きよらかに掃かれて茂吉の歌碑は庭限  
にあり 同・昭和二十七年

浅草の三筋町に茂吉の歌碑を見て街灯青くともる頃  
去る

「浅草旅情」と題する一連中の歌。

浅草三筋町は茂吉が明治二十九年十五歳の時に父と共

に上京して寄寓した浅草病院のあったところである。浅  
草病院は養父となる紀一が開業したもので、多感少年  
茂吉はここで一時期を過ごしたのであった。

この歌碑には、「浅草の三筋町なるおもひでもうたか  
たの如や過ぎゆく光の如や」(『つゆじも』大正九年)が  
刻まれている。

齋藤茂吉のゆかり尋ぬる友と来て代田八幡に拍手を  
打つ 同

老いの身に孫遊ばせし茂吉かと代田八幡の庭に憶へ  
り

地下足袋に齋藤茂吉の歩みけむ代田川辺に石路の咲  
く

新宿の大京町のビルの壁「茂吉終焉」の銘を夕光に  
見つ

齋藤茂吉ここに暮らしし晩年の「わが足よわり」と  
いふ歌あはれ

前の三首は茂吉が昭和二十二年十一月に大石田から帰  
京してすぐに住んだ世田谷区代田での作。残り二首は昭  
和二十五年から住んだ大京町での作。五首目の「わが足  
よわり」は「新宿の大京町といふほとりわが足よわり住  
みつかむとす」(『つきかげ』昭和二十六年)を指している。

## 楽しい時間 55

山本紀久雄

2017年4月28日

### 三遊亭円朝像…その四

アララギで三遊亭円朝を続けていますが、これからもしばらくお付き合ひお願いいたします。

先日、仲間内で「有閑マダム」と言われている女性から以下のメールが届いた。

「今朝4時のNHKラジオ深夜便で、太宰治の絶望名言を聞きました。太宰治は、意外にも本はあまり持ってなかったけど、円朝全集を持っていたと紹介されていました。憂鬱そうな写真の太宰治が、円朝の落語を聞いて、笑っていたのでしょうか」

これに対して、次のように返信しました。

「円朝落語は笑いものではありません。ゾツとする怪談、怖い話が多いのです。それと人間の生き方を説いたもので、教科書にも採用されました。今の小説の書き方を最初にはじめたのも円朝です。それまでは、<sup>レ</sup>候<sup>ハ</sup>調で書いていました」と。

すると、すぐに返信が来ました。

「深夜便の話だけ聞いた人は、わたしみたいに、誤解する人が多いかもしれません」

このように、円朝研究している結果、最近、いろいろ円朝に関する連絡が入ってくる。

さて、前号でお伝えした不動産企業での林家木久蔵師匠登場の件であるが、この企業はJリーグにおいて、現在トップを走っている浦和レッズのメインスポンサーで、レッズユニホームの旨に企業名が輝いている。

林家木久蔵師匠は、講演1時間半、落語30分と頑張った。講演では、落語界とは関係ない聴衆であったのであろう、落語家になるまでの業界システムについて話してくれた。

落語家は歌舞伎役者と違って、二世芸人はせいぜい40名程度で、その一人が自分だと言う。木久蔵師匠の父親は先代の林家木久蔵、現・林家木久扇師匠である。

落語家を志望する者は、一般的には高校または大学卒業してから師匠に弟子入りする。

まず、最初は「見習い」を一年間、次に「前座」が4年、都合5年が修業期間であり、この間は自分のことは何もしなく、師匠に尽くすことだけに集中する。つまり、師匠が何をしたいのか、どのように動くのか。それを事前に察知する「気働き・気遣い」を徹底的に身につけることだと強調された。

これは戦後日本初外国人落語家で、六代桂文枝（当時は桂三枝）に2008年弟子入りした、カナダ人の桂三輝（サンシャイン）も同様で、AGORA（2016年11月号）で語っている。

《極端に言えば、修業中に落語をつも習わなくてもいい。そのかわり、三年使つて師匠の空気を読めるようになれば、それができれば高座に上がったときに、お客さんの空気も読めるようになれる」と言われ続けたことで、これが実際には「ウケる話」の一つになり、「落語の修業では、空気を読め！」が大事で、これは「Read the air.」だ》と。

林家木久蔵師匠の講演にもどるが、前座の次は「二丁目」で、これが大体10年。そしていよいよ「真打」に昇進すると、師匠と呼ばれ、弟子を持つことができる。今は江戸時代以降でも空前の落語ブームで、弟子入り志願者も多いとも強調した。

この落語ブーム、実際にはどのくらいファンがいるのであろうか。空前の人気なのであるから相当数であろうと思っていたとこ

ろ、立川志らく師匠が次のように述べたので、これまたびっくりしているところである。(日経新聞2017年4月8日プロムナード「芸術論」)

《手前味噌だが落語ほど素晴らしい芸能は世界中を見てもそうはない。勿論演じ手が酷けりゃどうにもならないが。落語の存在を知らない日本人は殆どいないだろうが落語の凄さを知っている人間となるとどうだろうか。落語ファンなんてものはたかだか10万人程度ではないか。つまり人口の0.1%しか落語を知らずに死んでいくのである》

落語が好きだという人は多いし、寄席に通う人もたくさんいると思うが、本当に落語を理解しているのはたかだか10万人程度という。改めて、この数字の意味を考えているところだが、4月11日(火)に地元めぐろパシモンホールで開催された「気になる三人かい・・・柳家喬太郎・桃月庵白酒・春風亭二之輔」を聴きに行った。

前日の10日(月)は、春風亭二之輔がNHKテレビの「プロフェッショナル」に登場して、なかなか内容がよかったので、大いに関心持って会場向かった。

その春風亭二之輔を、NHKの「プロフェッショナル」が次のように伝えている。

《江戸時代以来と言われる平成、落語ブームをけん引する、春風亭二之輔(39)。人間国宝・柳家小三治が「久々の本物」だと称賛し、21人抜きで真打ちに大抜てきした。

その真骨頂は、古典落語を守りながらも、現代的なギャグをいれるなど自分の言葉で大胆にアレンジすること。さらに高座に上がる度にセリフを練り直し、絶えず進化させていく。

卓越した話芸を支えるのは、「今の自分を落語に写す」という二之輔の流儀。たとえば十八番の噺のひとつ「初天神」に出て

くる子ども・金坊は、自らの次男がモデル。目つき、言い方、しぐさ、日常で垣間見せるさまざまな所作を投影している。またそのために、家族、学校の先生、テレビでみる芸能人、駅ですれ違ふ人など、あらゆる人を常に観察しているという。そこで感じたことを自分の中に取り込み古典落語としてはき出した時、現代的な表現となり今の時代にあつた落語となつていく。二之輔は、年間350日、およそ900席もの高座に立ち、落語界で多いとされる。一席でも多くの高座にあがるのが二之輔のこだわりだ。大胆な落語で客を沸かせる二之輔だが、その素顔は正反対。客に受けないことを何より恐れ、楽屋では人知れずぼやき、迷い、不安と闘い続けている。身ひとつで高座に上がり、自らの話芸のみが頼りの「噺家」。芸を追求する道に終わりはない。場数を踏みどれだけ人気ができようと、二之輔は歩みをとめない。時に受けなければ、その場でもう一席別の古典落語をはなすこともある。噺をよき歩きながらでも稽古する。根はひねくれ者だが、落語にだけはどこまでも真摯に、貪欲に向き合い続ける》と。

めぐろパシモンホールでも、三人の中で春風亭二之輔が群を抜いていた。特に「まくらに振る」が際立ち、身近な話題を投げ、観客と掛け合いする。さすがと思う。次号続く。



漢詩研修 (八)

千代田岳精会 平井茂行

江畔独歩花を尋め  
こうほん ひとつぽ はなを たずめ

杜と

甫ほ

黄四娘の家花蹊に満ち  
こうし じやう いえはな けい に みち

千朵万朵枝を圧して低  
せんだ ばんだ えだを あつして だる

留連せる戯蝶は時時に舞い  
りゆうれん せる ぎぢやう は じじ に まい

自在の嬌鶯は恰恰として啼く  
じざい の きやうおう は ちちちとして なく

黄四娘家花满蹊

千朵万朵压枝低

留连戏蝶时时舞

自在娇莺恰恰啼

【解説】

杜甫が成都に住んでいたころ、浣花溪のほとりを一人歩いていて、花をたずねて作った詩である。七首の連作であるが、この詩はその第六首めである。杜甫が成都に家（いわゆる浣花草堂）を建てたのは上元元年（七六〇）の春、杜甫四十九歳のときであった。これはそれから間もないころの作品。当時は、杜甫の生涯のうちで、最も心の落ち着いていた日々であった。

【語釈】

\* 江畔：浣花溪のほとり。\* 黄四娘：草堂の近くの村のお婆さんの名。「娘」はむすめの意ではなく、年配の女性の称呼に用いる。\* 蹊：こみち。\* 朶：花のついた小枝。\* 留連：そこに続けている。\* 俗：鳥の啼き声。

【鑑賞】

杜甫が成都での草堂で作った七首連作の絶句である。このころの杜甫は自然を詠じ、愛すべき絶句を作っている。どの作品をとっても、のどかで、平和な田園生活を描写している。杜甫の安定した生活を知ることができよう。この詩の後半の二句は対句構成になっている。また起・承・転の三句は視覚の世界が、結句は聴覚の世界が詠じられたいる。全体を通してみても、色彩豊かな明るい詩である。花を愛している杜甫の生活が伝わってくる。浣花草堂の周りには竹や桃、その他の果樹を植え、畑を耕したりもした。また、釣にも興じた。いままでの杜甫には見られなかった日常の生活をしみじみ詠ったものであり、作者のくつろぎを感じとることができる。

## 葬斂の多い春

夏 目 勝 弘

春の来るたびに、思い浮かぶのは、万葉集の卷八1418の志貴皇子の喜びの御歌二首である。

○石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも

志貴皇子の御歌は万葉集に六首ある。卷一の51の遷都間もない九年春の頃の作品が最初の御歌（采女の袖吹きかへす明日香風都を遠みいたづらに吹く）。

藤原宮は、東に香久山、畝火山が西に、北には耳成山の見える、中央の井泉をよりどころに、藤原宮がいとなまれた。

志貴皇子の御歌次の52に（藤原の宮の御井の歌（長歌）の次の53に（短歌）として、作者未詳の一首に（藤原の大宮仕へあれつくや処女がともはしき呼ばふかも）。大意は、藤原の大宮の宮仕へに「あれ」櫛を立てるのであろうか、処女たちはしきりに呼びかわすよ。

志貴皇子の御歌と53の短歌の二首の内容から遷都した、藤原宮の様子が浮んでくる。

霊龜元年（715年）九月に志貴皇子が、なくなられた時に作られた歌一首と短歌が、万葉集巻二230と231に短歌二首がある。

長歌は土屋文明の万葉集から大意のみを書く。（あづさ弓を手に取り持つて、勇士が矢を手にし、立ち向い射る的という、その高円山に、春の野を焼く野火と見えるほど燃えている火を、どうしたことがと尋ねると、道を來る人の泣く涙が、小雨のように降り落ちるので、白い喪服もぬれて、立ち止って私に言うには、どうしてまあつまらぬことを聞くのです）。

その言葉を聞けば、ただ泣けるだけで、話せば心がいたみます。天皇の神のみ子たる皇子の、葬送の行列のたいまつ火が、こころ沢山照っているのです。

短歌二首

○231高円の野辺の秋萩いたづらに咲きか散らん見る人なしに

○232三笠山野辺行く道はこきだくもしじに荒れたる久にあるに

右の歌は、笠朝臣金村歌集に出ている。

今年の三月は中旬から下旬にかけて、五回葬儀に関わつてきた。火が必ず使われる、そこで火と宗教について少し調べてみた。

死者の霊を弔い、お盆には迎え火、送火を点す。火が重要な役割を果たすのは、世界の宗教の共通するところでもある。

また日本各地には、さまざまな火祭りが古から伝承されている。ローソクの火は、無明の闇を照らす灯明の意味をもつ。キリスト教のローソクの火は聖霊の象徴で、純化と熱意を表わすとか。

火葬の習俗は十世紀以降とか、また縄文時代から遺体や遺骨を焼いていた。自分の発掘の手伝をしていて見たことがある。

火についてはまだまだ、いくらでも思いつくことが出てくる。一週間の、日月火水木金土は、人間にとつてなくてはならないものばかりである。

金額的なのか無宗教者が多くなったためか家族葬が多い、今回二つが家族葬であった。

死者が四十九日が済み、あの世に還り、一番先に聞かれることは（あなたの宗教は何ですか）というところらしい。

今年の三月は、出席をしなかった家族葬を含め六件となった。

いま思い出しているのは、父親の櫃を乗せ赤土の山道を、古ぼけたリヤカーに乗せ、後を押して行き土葬した情景である。

## 「氷魚」のことから (197) 岡本八千代

一昨日の中日新聞の夕刊(4月22日)「大波小波」のコラムに、

○百田尚樹「中国を偉大な国と勘違いさせる『漢文』の授業は廃止せよ」(『S A P I O』五月号)には  
啞然とした。

とあった。私も驚きに驚いた。

日本語は、漢字あつてのひらがな、ひらがなあつての漢字として、その言葉、その文章の姿となり、読む人、書く人の心の動きが醸し出すことができるのではないか。

とくに短歌創作の場合、この歌のこのときこの漢字を使うという作者の感動のはたらきが大切なものとなつてくると思う。

例えば、漱石の「則天去私」が、ひらがなの中にあつてこそ、読む人の心に深く伝わつてくると私は思う。

さて、ここからは、漱石の「木屑録」について書かねばならない。

やはり、高島俊男著の「木屑録」に従つて、読んでゆく。

○「而時勢一変、余挾蟹行書上干郷校」時勢が変わつて、英語を習う世の中になつた。「蟹行」は、カニのように横に進むことで、横文字のこと。「郷校」は、いなかの学校みたいということ。

○「校課役、不復講鳥迹之文、詞賦簡牘之類、空東之高閣」学校の授業にアップアップで、漢文をやっているいとまんどぞない。

「講」はかまう。「鳥迹」は漢字。鳥の足あとのよう。「詞賦」は文体の分類。「簡牘」は書籍のこと。「束」はつまかさねてひくくすること。「高閣」はたなの上の一番上の段、用のないものを積み上げておく所。「束之高閣」は用の無いものをどこかへしまいこんでそれっきり忘れてしまうこと。「空」とは不要。

漱石は、遊び楽しみとして書くことは、しばらく無縁であつたのが、明治22年5月、子規から「七草集」を見せられて、文書を書きたい心が湧いてきたのであつた。次は十三章のはじめを読んでゆく。

○保田之南、里許有湾、窈然爲半月状。湾之南端、一巨岩高丈、上豊下削、状如巨人之拳。着然裂地而起。掌之下端、稍坦平可坐数人、其上攢阮開張如笠、望之欲墜不墜、如惴惴焉有不安者。

○保田の南の海岸に巨大な岩がある。これが奇妙な形の岩で、上で大きく開いて傘のようである。下の部分人が数人坐われる。今にも上の傘が落ちそうで見ているとこわくなつてくる、というのである。――しかし、現代の人が実際に見に行つても、漱石がいうような形の岩は無い、とか。漱石の思いちがいとも言われている。次回へ。

## エリザベス女王工学賞 日本人初受賞

伊藤 忠男 文責

### ○手術ロボット「ダヴィンチ」に頼る

ここ一カ月強入院した。前立腺がんの手術を行い、その治療のためだった。手術は最先端技術を用い、術後の負担を軽くしたいとして、手術ロボット「ダヴィンチ」によるロボット支援手術に頼った。この方法は、医師が患部の立体画像（最大15倍拡大）を見ながら、遠隔操作で先端の鉗子を操作すること。執刀医師に聞くと、あたかも、患部に医師が入り込み切り取るかのごとき正確さ、精密さであると言っていた。これが可能になったのは、内視鏡先端に仕込まれたカメラで鮮明な立体画像をスクリーンに映し出すことができるようになったからだと話された。

この話を聞き、今年、2月にエリザベス女王工学賞を始めて日本人（寺西信一氏）が受賞したというニュースを思い出した。確かその技術は医療技術にも応用されていると記載されていた

### ○ノーベル賞から除外された工学

エリザベス女王工学賞をご存知かな。まだ十分その価値が公に伝わっていない感じがするので、ちょっと紹介したい。2011年11月、「工学的見地から人類に対し著しい貢献をした個人もしくは団体に与えられる」として設立されたもの、2年毎に受賞者の選考が行われると規定している。今まで3回の選考が行われた。

この種で最も有名なノーベル賞は物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、平和賞に経済学賞の6部門に限られている。そこには私たちにとって、馴染み深い工学賞がない。なぜなのだろうか。工学は「どうしたら目指す成果に結び付けられるか」という、人類・社会で広く使われ利用されることを目的にしていた。そのため、初期には軍事に利用された。そのことが一つの要因として考えられている。しかし、その後は安全性、経済性、運用・保守性といった、実用上の観点が評価され、資源、エネルギー、環境やインフラの分野で大きな役割を果たしている。ノーベル賞からの除外は、現代社会における多大な貢献を考えると、違和感がある。そのことから工学部門のノーベル賞を目指して設立されたと言われている。（因みに賞金他扱いはノーベル賞以上である）

### ○日本人が初受賞した工学技術 その恩恵を受ける

最近、テレビ画面がきれいになった。放送用カメラの質の向上によるらしい。PCの画面も向上した。デジタルカメラの写りが良い。iPhon・携帯電話でも従来のカメラ以上に美しい。逆光やグラデーシオンでも美しい映像が撮れる。紫外線、赤外線も見える。自動運転に必要な車のセンサー、その映像、胃カメラ内視鏡の画面も鮮明だとの話を聞く。

それは、1980年に日本の寺西信一氏等により開発されたイメージセンサーの利用によるとのことであった。今、全世界の放送用機器、PC関連から自動車分野に医療機器等で「目」に相当するすべて分野に用いられ、飛躍的に変化していることを知った。「従来の画素に取って代わった技術、いわゆる技術革新でデジタル映像の画質を大幅に簡単に安価に向上させることができたことによるものですよ」と寺西氏は語っている。この成果でエリザベス女王工学賞に選ばれたわけであるが、詳しく聞いて見ると今回の私の手術もその恩恵を受けていたことが分かった。

### ○有史以前なら火を起こした人たち

もし、この賞が人類の創世記からあるとしたら、木と火で火を起こした人。石を鋭角的に加工する技術を見出

した人など、確実にエリザベス女王工学賞に値する。古代ならば車輪、梯子に歯車も。現代ならば、CO<sub>2</sub>が発生しない化石燃料の安価な燃やし方（技術革新が可能なら）、これなども図りしれない人類貢献になる。或いは、いかなる物質間でも簡単に同質結合する溶接、溶着技術等も工学的価値が高いのだろう。工学賞は実用化される技術であることから、私たちにとって最も身近に感じられるものである。

### ○将来、身近な人からの受賞者を夢見て

そう、私たちが日常に触れる技術の延長それが工学技術である。

インターネットの礎を築いた、プラウザやWWWを考案、提唱したエンジニアに初回の工学賞が授与された。私たちの身の回りに役立つ技術から生まれた技術やその改良から生まれた技術が世界のあらゆる分野で適用され、人類に計り知れない影響を与えるようなイノベーションをもたらしたら、その対象になり得る。

だとしたら、いつか「私たち身近な人の中からエリザベス女王工学賞を受賞」なんて夢を抱かせてくれる。過日の新聞を探し、そんなたわいもないことにワクワクしながら、退屈な病室での日々を送っていた。

## 編集室だより【二〇一七年四月】

○ ジムへ通う常の道。八代将軍・徳川吉宗の桜の植樹がルーツの、飛鳥山の桜が咲きはじめる。ジムでは、三ヶ月毎に筋肉チエックをして下さる。今回も、実年令を二十何才か若い数値がでた。このまま筋トレを続けて、もっと若返ってしまったらどうしよう…心配になった。

○ 編集室の所在地は、広重の浮世絵「名所江戸百景」に。すんなり入ってしまうような位置にあり、見つけたり、気付いたりすることが沢山ある。日々歩くのが楽しい。

○ 小金井カントリー倶楽部あたりが源流とされる石神井川が王子の町を流れ、隅田川に合流する、その川岸に、江戸時代、加賀前田家下屋敷があり、その面影を宿して千本もの桜が咲く。沢山歩かないとゆき着かないから、ほとんど行き交う人ということはない。たったひとりの豪華絢爛の遊び、天も地も川面も空気も…ただただ桜。桜の中を、ずっとずっと歩いていると、板橋、帝京大学医学部病院にゆきあたる。このビルの上階のレストランで、今度は見降す桜の中で、お茶をする。

○ 飛鳥山博物館

江戸時代から近代にかけて北区の名所を描いた浮世絵展にゆく。

「飛鳥山花見」勝川春潮、「王子村料理屋、海老屋・扇屋」喜多川喜久麿、歌川豊国。「王子稲荷飛鳥山之図」葛飾北斎。いま咲く桜の間に間に、江戸の風物を垣間みる思いだった。

○ 上野毛、五島美術館へ、俳句の吟行。

先ずまみえる、愛染明王坐像・鎌倉時代。私の拙い彫刻経験とはいえ、この仏様の彫られた二刀二刀に思いが及び、胸がいっぱいになる。時空を超えて、今度私の彫る釈迦如来坐像と同じ様式でここに居られた。

○ 千代田フィルハーモニー管弦楽団、演奏会。

指揮、和田二樹

・モーツァルト… 歌劇〈魔笛〉K・620序曲  
・メンデルスゾーン… 交響曲第4番、イ長調、OP・90（ヘタリア）  
・シューマン… 交響曲第4番、二短調、OP・120  
・ニュートリノ… みたいに、音が私の身体を通り抜けてゆく。身も心も、リフレッシュ。

○ 大英自然史博物館展。国立科学博物館。

何と言っても、大きく時を離れた、本当のものが見られるのだから、こんなに興味深いことはない。アルゼンチンとチリからの約一万二千年前のオオナマケモノ、その皮膚とフンと骨と…。今のナマケモノよりかなり大きく、どうしてそんなに大きかったのか？どうして今の大きさになったのか？全部の展示品について、その差を、まじめに考えるのだった。

○ Electric Daisy Carnival EDCは20年前にロサンゼルスで始まり、現在は、アメリカ・メキシコ・イギリス・ブラジル・インド

…と世界中を熱狂させている。日本初上陸！初開催動員数、2日間で8万4千人。幕張メッセ、マリスタジアム・ビーチ…天にも届く大音響！個人個人、人間のメカニズムは消えさり、全ては音が支配する。私もひとつの大きな音と化した。

## 野菜の花（12）

鈴木孝雄



○トマト

黄色い5弁の小さな花は麗夏と言う大玉トマト品種の花。トマトの花は私には堂々としているように見える。こんな小さな花から大きなトマトの実が育つからだろうか。

他のナス科の野菜と異なり、受粉は容易ではなく、風や蜂などの昆虫の助けが必要。温室栽培では生産性向上のため、受粉用のホルモン剤を噴霧する、あるいはオランダ等から輸入したセイヨウオオハナバチの助けを借りている。しかし、外来の蜂が温室から逃げ出し固有の蜂を駆逐する問題が生じている。

この問題は放おって置くわけには行かない。「サカタのタネ」がやってくれました。昨2016年キュウリのように受粉の不要な単為結果性の大玉トマトの種が発売された。

最近フルーツトマトが人気。ところで、トマトは果物か野菜かどっち?米国では、1893年最高裁が「野菜である」と裁決した。輸入税を課すかどうかが大問題だったからだ。我が国では統計上、農水省は野菜、文科省は科学的見地から果物と分類している。

フルーツトマトは、極力水分の施しを抑える水分ストレス法で栽培される。トマトはアンデス原産であり、乾燥した土地を好む。私も、水遣りはほとんどしないが、露地栽培で雨は避けられない。従って高糖度は望むべくもない。

それでもトマト栽培は楽しみである。夏の日、畑で真っ赤なトマトを摘んできて、井戸水で冷やし食べた味が忘れられないからだ。4月下旬、植え付けた苗は見る見るうちに上へ上へと伸びる。青い実が赤くなるまでもう直ぐだ。

次回はバジルの花の予定です。

# お知らせ

△七月号の原稿は、五月三十一日（水）までに、必着 郵送ください。

※毎月々の原稿が、期日までに到着しないと、編集に支障をきたします。

郵便の休配（日曜、祝日）を考え、早目に送付して下さい。

※原稿の返却を希望される方は、毎月原稿に返却希望とお書き下さい。

三河アララギ誌発送に同封します。▽原稿の送り先

東京都北区王子本町一の二六の六A 〒一四一〇〇二二 今泉由利

※原稿用紙は、二百字詰（20字×10行）を使用し、文字はわかりやすく楷書で濃く大きく書いて下さい。

## 「子規・漱石・極堂 生誕150年」 第三十五回 子規顕彰全国短歌大会

（応募要項）雑誌と首1組（未発表作品に限る。何組でも可。規定の応募用紙は子規記念博物館のホームページからダウンロードできます。郵便番号、住所、氏名、雅号、電話番号を楷書で明記し、氏名、雅号には必ずふりがなを付けてください。1500円（2首1組）郵便小為替か現金書留

（応募先）〒7900857 松山市道後公園130 子規記念博物館内 子規顕彰全国短歌大会係 電話 08919315566 ホームページ <http://sikhakulesp.co.jp/>

（締め切り）平成29年7月31日（月）※必着

（賞と発表）文部科学大臣賞 愛媛県知事賞 松山市長賞 松山市教育長賞 後援賞 現代歌人協会子規記念賞 日本歌人クラブ賞 短歌研究社賞 短歌・編集部賞 現代短歌社賞 選考賞 各選考特選3首・入選15首（計90首）

（入賞発表）応募者全員に送付いたします。（12月下旬予定）

（大会日時）平成29年10月22日（日）午前10時より

（会場）松山市立子規記念博物館 4階講堂

（記念講演）講師／秋葉四郎氏（日本歌人クラブ顧問・前会長、（米道）編集人、斎藤茂吉記念館館長）  
演題「再考歌人子規人間子規 一生話五十年たてて」

（主催）松山教育委員会

（後援）文化庁 愛媛県 現代歌人協会 日本歌人クラブ 松山歌人会 短歌研究社 角川「短歌」現代短歌社 朝日新聞社 読売新聞社 毎日新聞社 愛媛新聞社 NPO松山放送局 南海放送 テレビ愛媛 あいテレビ 愛媛朝日テレビ FM愛媛 愛媛CAV

## 「三河アララギ」について

◇三河アララギ誌・毎月発行。

◇会員・今まで会員の方。希望される方。

◇会費制・廃止。既納会費は返却致しません。

◇これから講読を希望される方。一ヶ年分、四千円 振替口座〇〇八三〇一六〇一五六二二九。

◇会員、会員以外の方に執筆をお願いすることがあります。

◇短歌・俳句・論文・随筆など送稿することができます。

◇発行所開催の諸行事にどなたも出席出来ます。

◇三河アララギ発行所 〒一四一〇〇二二

東京都北区王子本町一 二六 一六 A

TEL・(03) 五九二四一 二〇六五

◇URL・E-mail [yurimaizumi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:yurimaizumi@jcom.zaq.ne.jp)

Homepage <http://maizumiyuri.jp/>

◇編集・発行・今泉由利・森岡陽子

◇印刷所・株式会社 桜創美